

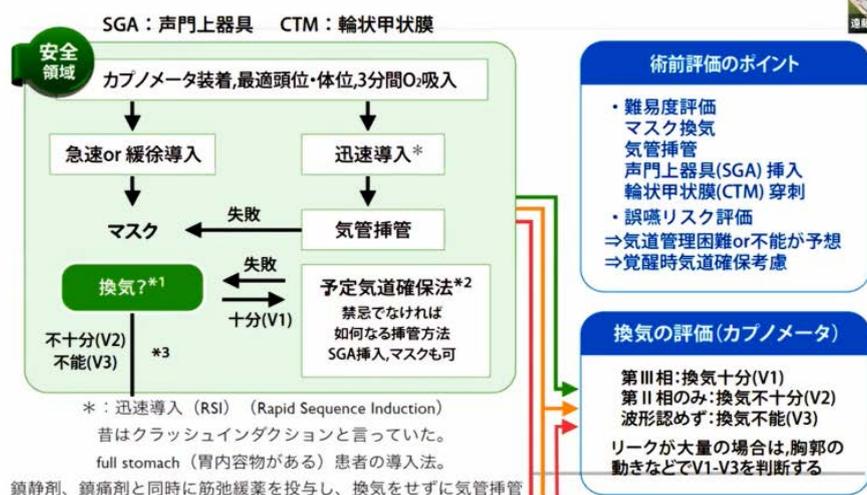
医療従事者のためのオンライン講座2021 第2回「アナフィラキシー対応と緊急気道確保」

宮城県内の医療従事者に向けた、医療従事者のためのオンライン講座を新たに企画し開催いたしました。第2回目は「アナフィラキシー対応と緊急気道確保」というテーマで東北医科薬科大学病院救急科の遠藤智之先生にご講演いただき、たくさんの方にご参加いただきました。

アナフィラキシーの臨床的診断基準

Anaphylaxis (アナフィラキシー) は以下の3つの基準のうちどれか1つを満たせば非常に可能性が高い。

- ① **急性発症(数分～数時間)で、皮膚、粘膜、もしくは両方の症状を伴い、少なくとも以下の1つを有する**
 - A) 呼吸障害(呼吸困難、喘鳴、wheezeなど)
 - B) 血圧の低下もしくは関連する症状(卒倒、失神、失禁)
- ② **患者にとって可能性のあるアレルゲン暴露後に急速に発生する以下の症状が2つ以上ある(数分～数時間)**
 - A) 皮膚・粘膜組織の関与
 - B) 呼吸障害(呼吸困難、喘鳴、wheezeなど)
 - C) 血圧の低下もしくは関連する症状(卒倒、失神、失禁)
 - D) 持続する消化器症状(腹痛、下痢)
- ③ **患者にとって既知のアレルゲン暴露後の血圧低下(数分～数時間)**
 - A) 乳児や小児：年齢に見合わない血圧低下or収縮期血圧30%以上の低下
 - B) 成人：収縮期血圧<90 or その患者のベースの血圧より30%以上の低下



東北大学麻酔科江島先生のご厚意により使用